



## 『みんななかよし』

校長 山田 彰利

先日、といっても11月ですが、計画委員会主催の縦割り班集会が行われました。掃除の縦割り班ごとに校内に散らばり、校内放送で出されるクイズやゲームに挑戦するものです。班のメンバーは1年生から6年生までバラバラ。上級生は下級生を優しくリードし、自分たちより下級生に楽しんでもらおうとする姿が随所に見られました。互いに名前を覚え、協力して活動する中で、「優しい思いやりの心」が育っている事を実感しました。

さて、表題は、本校教育目標の徳育の視点からの努力目標です。児童玄関や体育館にも大きく掲示してあるため、ご存じの方も多いと思います。調べると、平成16年に設定されたもので、本校の伝統、又は子供たちの合い言葉といってもよいものだと捉えています。

「みんなと仲良くなんて無理だ」そんな考えもあるかと思ひますし、もっともだとも思ひます。私はこの言葉を、誰もを認め合える、否定しない、そんな温かい人間関係を築いていこうとすること、と捉えています。その中でなかよしが増えていったらそれに越したことはない。冒頭で示した縦割り班集会は、まさにこうした温かい関係が子供たちに見て取れた場面でした。

令和3年が終わりに近付き、冬休みへと向かいます。春から、コロナ禍の下、様々な制約の中での教育活動でした。保護者の皆様にもご不便をおかけすることも多々ありました。ご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。今回は最後に、ドロシー・ロー・ノルトという米国の教育学者の「子供」という詩を紹介して終わります。(ご存じの方も多いと思います)

批判ばかりされた子供は、非難することをおぼえる  
 殴られて大きくなった子供は、力にたよることをおぼえる  
 笑いものにされた子供は、ものを言わずにいることをおぼえる  
 皮肉にさらされた子供は、鈍い良心のもちぬしとなる  
 しかし、激励を受けた子供は、自信をおぼえる  
 寛容にであった子供は、忍耐をおぼえる  
 賞賛を受けた子供は、評価することをおぼえる  
 フェアプレーを経験した子供は、公正をおぼえる  
 友情を知る子供は、親切をおぼえる  
 安心を経験した子供は、信頼をおぼえる  
 可愛がられ抱きしめられた子供は、世界中の愛情を感じとることをおぼえる

私たち教育者として、  
 いつもそばに置いて  
 おきたいことばです。

ご家庭でも…

### ■新型コロナウイルス感染症への対応に関するお願い

- ① 家族など同居人に風邪の症状が見られる場合、お子さんの登校を見合わせていただいておりますが、当面の間、継続するよう教育委員会からの指示がありました。県の大西医師から予期せぬ拡大を防止するために必要だとの指導があったそうです。ご協力をよろしくお願いします。
- ② ワクチンについて、現在12歳から接種可能となっておりますが、接種については個人の自由であり、接種ができない人、接種を望まない人もいることを児童にも確認しています。このことによる差別やいじめにつながらないように、ご家庭でもご理解とご協力をお願いします。